



富山県立大学ニュース

令和元年6月発行
富山県立大学広報・情報委員会

看護学部開設特別号



CONTENTS

- 看護学部長あいさつ
- 看護学部の概要
- 平成31年度入試状況
- 講座紹介



「待望の1期生を迎えて」

ひみ里山杉や立山杉を使用して建てられた広い教育棟に、1期生123名の明るい声が響きわたっています。待望の看護学部が富山キャンパスにスタートしたのです！

必携のノートパソコンには、専門基礎科目の形態機能学や専門科目の基礎看護学等の電子テキストが入っています。少人数教育のトピックゼミⅠも始まりました。信頼性の高い情報を多角的に収集し、整理・分析・討議して、主体性や創造性を高めていってほしいと願っています。直ぐに始まる初期体験実習では、病院や施設等さまざまな環境で暮らす人々や、人々を支える専門職の方々から、多くのことを学ぶことでしょう。座学での学びを実体験しながら知識を深め感性を磨き、自分自身を振り返りながら一步一步進みましょう。

1期生のご家族様、1期生の指導に関わってくださる皆様、そして県民の皆様、全国からこの学び舎に集う看護学生に、沢山のエールを送ってくださいますよう、お願い申し上げます。

●看護学部の概要

医療の高度化・役割の多様化に対応

近年、医療技術の高度化・複雑化により、医療現場からは質の高い看護師が求められています。また、医療の場は病院だけでなく多様化しており、地域で暮らす人々を支えるために広い視野を持つ看護師も求められています。本学ではそのニーズに応えるために、一般教養に加えて看護の知識や技術を統合し、科学的に問題を解決する能力や倫理を含めた総合的な判断力を培うためのカリキュラムや実習を充実させています。



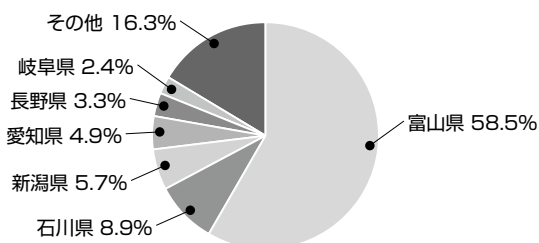
カリキュラムを看護師育成に特化

4年間で看護学をしっかり学ぶために、カリキュラムを看護師育成に特化しました。質の高い看護の提供はもちろん、一生の仕事として自信を持って働き続けるためには、専門的知識・技術、人間性をより高めることが重要です。その第一歩が看護基礎教育です。本学ではこの看護基礎教育を重視し、専門的知識・技術の教育にとどまらず、課題対応能力や研究能力を十分に培い、高度化する医療や超高齢社会に伴う看護の役割拡大に対応できる教育を目指します。これは将来、保健師や助産師、看護学専攻の大学院を目指す専門的な学びの礎にもなります。

●平成31年度入試状況

	募集人員	志願者数	受験者数 (a)	合格者数 (b)	入学者数	競争倍率 (a/b)
推薦入試	48	122	122	48	48	2.5
前期日程	62	417	354	64	56	5.5
後期日程	10	259	109	20	19	5.5
計	120	798	585	132	123	4.4

学生の出身地域
(平成31年度入学生123人)



看護学部 講座紹介

●基礎看護学

本講座では、入学後最初に学ぶ看護専門科目を担当し、看護の基礎的な能力を高めることを目指しています。1年生4月から開講する「看護学概論」では、看護理論や看護の構成概念について探求したり、看護の法的責任、看護政策、看護倫理について教授します。また、1年生5月～2年生8月に開講する「看護技術」の6科目では、理論と実践から構成された最新の知見をふまえ、「安全・安楽・自立・個別性」を基盤としたケア方法を教授します。

講座員の研究テーマは、「看護ケアの動作分析、看護ケア物品・行為の衛生学的検討、寝具・衣服素材と快適性との関連、皮膚創傷治療の影響要因分析、転倒に関連する運動機能評価、難病患者的生活支援用具の開発、看護師のストレスやジレンマの分析、eラーニングを活用した教育教材の開発」等、多岐に渡ります。



教授 岡本 恵里



准教授 川崎 久子



准教授 三善 郁代



准教授 林 静子



講師 浦井 珠恵



講師 福森 絢子



講師 山本 麻理奈



講師 鷺塚 寛子



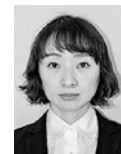
助教 岩崎 涼子



助教 矢野 正晃



助手 細田 恵莉奈



助手 堀田 美沙

●成人看護学（急性期）

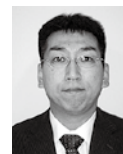
私たちの講座は、青年期から壮年期・中年期、向老期にわたる成人とその家族が、急な病気や事故により生じた重篤な状態と手術療法における看護について、教育と研究を行います。

その看護を提供するには、急激に患者の身体に生じる侵襲と免疫反応、手術や薬物などの治療とその影響から生じる変化に関する知識、経験、注意深い観察力、集中力、想像力が必要です。併せて刻々と変化する経過に沿って、患者とその家族に生じる心理・精神状態、社会的問題に寄り添い理解し、危機的状況からより良い回復、社会復帰への支援が必要であり、その理論と方法を学びます。

研究テーマは、学生の学習支援としての教育方略・教材開発、危機状況でのせん妄予防と支援、患者にとって安全・安楽な人工呼吸器管理や医療チームとして手術看護などです。



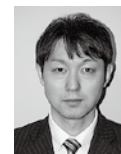
教授 栗子 嘉美



講師 寺内 英真



講師 二本柳 圭



助教 竹口 将志

●成人看護学（慢性期）

本講座は、『慢性疾患を有し、生涯にわたって生活のコントロールが必要な人とその家族が、その人らしい社会生活を送ること』や『緩和ケアを必要としている健康障害を持つ人と、その家族ができる限り良好なクオリティ・オブ・ライフを実現すること』を主なテーマとし、個性や尊厳を踏まえた看護の教育と研究を行っています。病気や障害を受け入れるプロセスや自己概念への影響を学習し、セルフマネジメントを促すことが必要です。そのため慢性疾患、療養環境の特徴をとらえ、継続的支援を行うための理論と実践について学びます。また社会資源やチームワークについても学習します。

講座員の研究テーマは、がん看護に関する地域での課題調査、慢性疾患を抱える対象者のストレスマネジメントの分析、人工透析看護の在り方など国内外に焦点をあてています。



教授 片田 裕子



准教授 比嘉 尚江



講師 若林 理恵子



助教 瀨野 初恵



助教 福村 寛子

●老年看護学

人は年を重ねるごとに、さまざまな知恵や経験を身につけます。高齢者の看護は、豊かな知恵や経験を有する“その人を尊重する”ことから始まり、加齢や病気に伴う心身の変化に対応しながら暮らす“その人を理解する”こと、そして“その人に応じた看護を実践する”ことだといえます。また、高齢者を深く理解するには、時代的背景や個人の生活史を含めた全体像を捉える必要があります。ゆえに本講座では、表情やしぐさという高齢者からのサインをキャッチする豊かな感性を磨くこと、そのサインの意味を解釈する知識を深めること、および高齢者が有する力を引き出すためのコミュニケーション技法や、アセスメント能力の向上に関する学修に焦点を当てています。さらに、今日的課題である身体抑制や認知症看護、専門職連携等に関する教育研究を行っています。



教授 竹内 登美子



講師 青柳 寿弘



講師 伊藤 裕佳



助教 米山 真理

●小児看護学

小児看護学は、新生児期から思春期までの全ての子どもとその家族を対象としています。目まぐるしく変化する社会の中で、子どもとその家族が抱える問題も多様化しています。そのような現状を踏まえて、小児看護には、子どもの権利、子どもの身体的・心理的・社会的特徴や成長・発達過程の理解、そして子どもと家族の健康を支える社会資源や制度について重点を置いた看護が求められます。また、子どもとの関わりを通して、成長発達に応じた日常生活の援助と集団生活における感染防止や事故防止のための環境調整についての理解を深めることも重要です。これらのことから本講座では、子どもの未来を見据えて健やかな成長を促進するための援助をはじめ、病気・障がいをもつ子どもと家族への看護の在り方について教育研究を行っていきます。



講師 若瀬 淳子



講師 高木 園美



講師 寺井 孝弘



助教 松本 美子

●母性看護学

母性看護学が目指すものは、女性の生涯を通じての「性と生殖」に関する健康の保持増進および女性の生活の質の向上です。妊娠中から育児をする「周産期」では母となる女性と子どもや家族の生活を支え、子どもから大人への移行の時期「思春期」では身体的・精神的・社会的な変化に応じることができるよう応援します。生物学的・心理学的・社会文化的に「親になること」を通しての次世代の育成を支援する看護ともいえます。

本学の母性看護学講座では、以下の活動・研究に取り組んでいます。助産師への継続教育、子宮頸がん検診の向上、理工学的視点を活かした母性看護技術の開発、父親になる男性への支援、在日外国人が安心して出産できる仕組みづくり、母乳育児支援、産後2週間健診における高齢妊婦への援助、児の泣きに関する援助などです。



教授 松井 弘美



准教授 工藤 里香



講師 小林 絵里子



講師 村田 美代子



助教 岡田 麻代



助教 北島 友香



助教 三加 るり子



助教 西村 香織

●精神看護学

情報化が進展する現代社会において、人間関係の複雑さから多くのこころの病があり、「こころの健康」はますます重要となっています。

精神看護学では、あらゆる世代の人々の「こころの健康」について学びます。こころを病む人々に対しては病気の面だけではなく、その人の持っている健康的な面にも着目して全人的な視点から理解し、正しい知識や適切な理論等を踏まえた専門的な技術を用いて、こころを病む人の気持ちに寄り添ったかかわりやケアを学んでいきます。さらにこころを病む人やその家族が抱える問題の解決や、看護者のコミュニケーションの課題、精神看護の教育のための研究も行います。



教授 田中 いずみ



講師 杉山 由香里



助教 遠田 大輔



助教 浜多 美奈子

●在宅看護学

在宅看護学は、病気や障がいがあっても住み慣れた地域や自宅で、生活を続けたい、また、退院後自分の思う生活をしたい、家族と一緒に生活したいと考えている人とその家族を支援することが目的です。在宅ケアでは、高齢者世帯、認知症高齢者、一人暮らし、医療を必要とする小児、精神障がいを持つ人が増加しています。そのなかで、訪問看護師は、自宅での医療的ケア、日常生活援助、薬物管理、介護者や家族への指導、心理的支援や健康状態を見守る等、多岐にわたる看護を行っています。一方、退院支援看護師は、退院後に自宅生活ができるように、病院スタッフや地域の医療福祉スタッフと連携し、退院支援を行っています。

本講座では、退院支援、退院後の生活支援、看取り、他職種との連携等についての看護を学び、在宅生活の継続について探求しています。



准教授 河野 由美子



講師 山崎 智可



助教 北林 正子

●地域看護学

地域看護学は、公衆衛生学と看護学を学問背景として、地域（コミュニティ）全体の健康を支援する看護学の領域です。対象は妊娠期から老年期までのすべてのライフステージの人々です。また支援する健康レベルも個人・家族・集団の健康増進から、病気予防を中心に様々なレベルを扱います。地域（コミュニティ）の中には、家庭・学校・産業・行政など多様な場と、国際看護や災害時看護など状況に応じた活動の場がありますが、地域看護学はそのすべてを含みます。このように地域看護はとても間口が広い看護領域ですが、それだけに多様な視点からの看護を学ぶことができます。さらに行政や産業の場で働く看護職である保健師の活動についても知ることができますので、興味のある方は、ぜひ一緒に学んでいきましょう。



教授 越田 美穂子



講師 朝倉 理映



講師 渋谷 昭子



助手 小貫 衣澄